

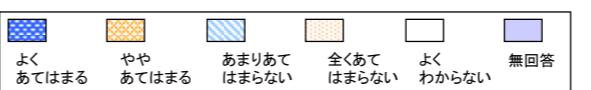
令和7年度 『学校評価アンケートの結果』と『自己評価』

荒川区立諏訪台中学校

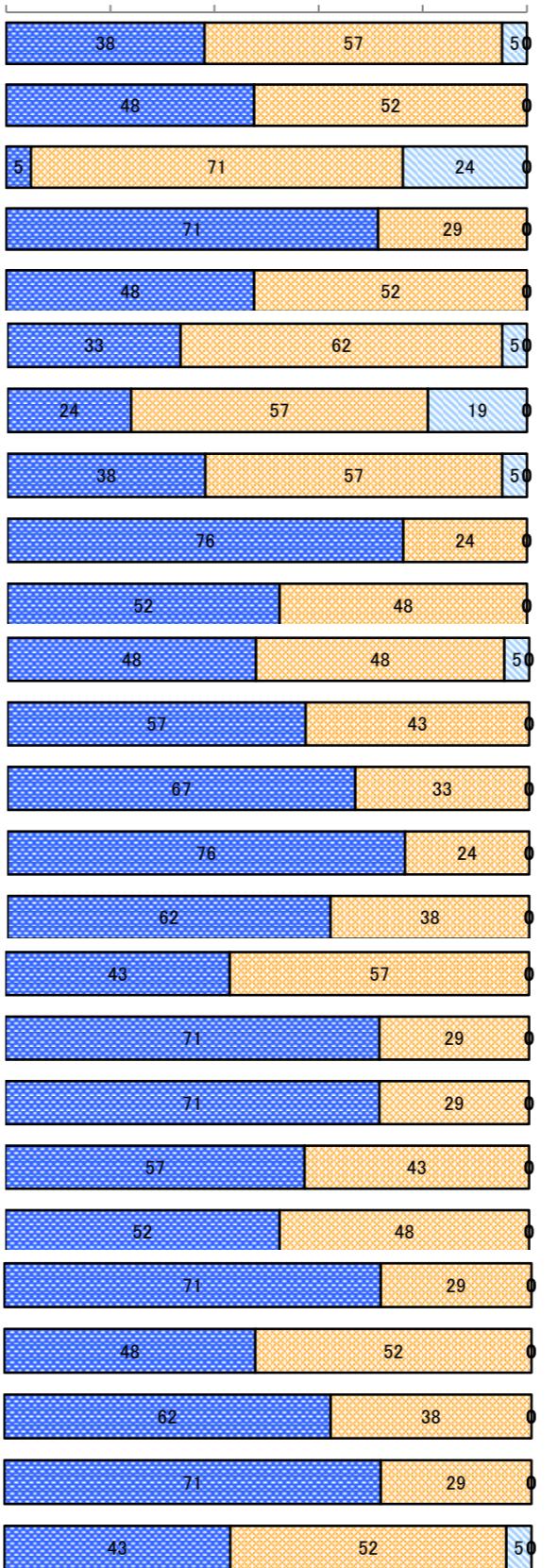
様式4

		アンケートの結果					
		上段：生徒 下段：保護者等 グラフ：教職員					
学校全体の様子	1 教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。					
	2 児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。					
	3 基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的生活習慣がしっかりとれている。					
	4 児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。					
	5 健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。					
	6 分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。					
学力向上の取組	7 個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。					
	8 学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。					
	9 情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。					
	10 学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。					
	11 人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。					
社会性・人間性の育成	12 道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。					
	13 教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。					
	14 人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。					
	15 自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。					
	16 情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。					
保護者・地域との連携	17 相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。					
	18 学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。					
	19 地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。					
	20 意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。					
	21 検定等による学習意欲の向上	英検、漢検、数研、防災検定等の各種検定に取り組んでいる。					
各学校の特色ある教育	22 定期考查に向けた家庭学習	「学習計画表」「試験前学習会」等を活用し、定期考查に向けて計画的に家庭学習するよう取り組まれている。					
	23 主体的な学習活動	授業等で考え話し合ったことを、発表したり聞いたりするなど、主体的・対話的な深い学びを取り入れた学習活動を行っている。					
	24 外部人材の取組	職場体験やマナー講座、出前授業など、外部団体や外部人材による学習活動を充実させている。					
	25 進路選択	将来に対する目的意識をもち、進路を選択・決定する能力・態度を身に付けることができるような学習システムを充実させている。					

無効票を除く(%)



0% 20% 40% 60% 80% 100%



学校の自己評価（考察）

生徒の8.5割が「あてはまる」と回答、昨年度の8割弱よりも改善した。引き続き教育目標を発信、周知していく。

約9.8割の生徒が「あてはまる」と回答。生徒自身の学校生活への満足度は高い。居場所や活躍の場を設定し、自己実現を図る。

生徒、保護者の8~9割は「あてはまる」と答えたが、教職員の3割が「あまりあてはまらない」と、指導改善の必要を感じている。

8割以上が「あてはまる」と回答している。今後も生徒理解を深め、生徒一人一人を認め、励ます指導を継続する。

避難訓練や交通安全指導などにより年間を通して取り組んだ結果、「あてはまる」の回答が9割を超えた。

生徒の8.5割が「あてはまる」と評価、一方、保護者は6割強と低い。授業改善に努めるとともに、保護者へ知らせる工夫も必要。

前項目同様、保護者の肯定感が6割強に留まっている。一人一人の習熟度に応じた学習指導を充実させ、保護者へ知らせていく。

生徒の肯定的な回答が6.5割に留まっている。「てらこや」等の放課後学習や家庭学習を定着、充実させる工夫が必要。

生徒、保護者の9割超が高評価。今後もタブレットPCや学習アプリ等を活用し、情報活用能力の育成に力を入れていく。

生徒の約7割が「あてはまる」と回答、昨年度と同程度に留まる。読書週間等の取組や学校図書館を活用する授業をさらに進める。

生徒の9.4割、保護者の約8割が「あてはまる」と肯定的な評価である。キャリア教育等と関連させ、豊かな人間性を育していく。

8割超の生徒が肯定的評価である一方、保護者の「よくわからない」が1.6割。道徳的実践力のさらなる育成を目指し取り組む。

生徒の2割、保護者の1割が「あてはまらない」と回答、昨年度よりやや改善した。今後も生徒が気軽に相談できる環境を整える。

生徒、保護者ともに9.5割が「あてはまる」と回答している。今後も学校行事等の教育活動に工夫を凝らし充実させていく。

生徒、保護者ともに9割弱が「あてはまる」と回答。生徒会を中心して委員会活動が充実して行われている結果だと思われる。

生徒の1割、保護者の1.5割が「あてはまらない」と回答している。必要な情報をわかりやすく伝えられるよう、発信していく。

生徒、保護者ともに肯定的回答が8割を超える。昨年度より上昇。日常的に連絡を取りながら、保護者、地域との連携を強める。

生徒、保護者ともに肯定的回答が9割を超えた。今後も、授業公開日を年度当初に伝え、月予定等でも早めに通知して参加を促す。

保護者回答の中で「よくわからない」が2.3割と多い。学校だより、学年だより等で校内活動や地域との連携行事を知らせる。

前問同様「よく分からぬ」と回答した保護者が2.4割。保護者会や学校便り等で、保護者の要望への対応などを発信していく。

生徒の「あてはまる」回答が5割強に留まる。各種検定の周知を図り、さらに多くの生徒が興味・関心を高める工夫をする。

生徒の「あてはまらない」回答が2.5割程度いる。学習計画表を活用し、目標と計画を立て家庭学習を充実させるよう取り組む。

保護者の「よくわからない」回答が約3割で、全項目の中で最多。話し合いや発表等を取り入れた授業を積極的に行っていく。

生徒は9割超が「あてはまる」と答え、保護者の1.7割が「わからない」と回答。学校だより、学年だより等で発信していく。

保護者は7割、生徒は8割強が肯定的回答。保護者の1.7割が「わからない」と回答。家庭との連携を強め、進路指導を充実させる。

無効票を除く(%)